

美しい森林^{もり}づくり全国推進会議 日本生活協同組合連合会が担う 美しい森林づくりへの活動

「美しい森林づくり全国推進会議」の構成団体で、
消費者の立場に立った食品の安全行政を行っている日本生活協同組合連合会。
今回、組織推進本部 環境事業推進室 室長の大沢年一さんと、渉外広報本部 本部長スタッフの市川智弘さんに
おもな活動や「美しい森林づくり全国推進会議」での役割などを伺いました。

みやぎ生協を中心に広がる 「こゝぶの森」づくり

生協の環境保全への取り組みは一九七〇年代から始まっています。水環境問題や「マイバッグ」持参運動によるレジ袋削減から始まり、一九九〇年代前後の地球環境問題への関心の高まりとともに広がりました。組合員が参加するリサイクル運動など、消費者参加型の取り組みが特徴で、全国の生協ではすでに約五〇%のレジ袋削減率を達成し、店舗の約六割が有料化を実施、一年間に全国で約三億枚のレジ袋を削減しています。牛乳パックの回収もリサイクルへの取り組みのひとつですが、それらの収益金を積み立てて、植林を行い、森林保全などに役立てています。

みやぎ生活協同組合では一九九二年から国



組織推進本部 環境事業推進室 室長の大沢年一さんと、
渉外広報本部 本部長スタッフの市川智弘さん

有林の分収造林制度を活用した植林活動を行っています。毎年、栗などの広葉樹を植え、下刈りやツル切りなど子供たちも参加する活動をしています。現在「こゝぶの森」は県内四箇所に広がり、「自然観察会」や「緑の観察会」を定期的に行い、多くの人たちが参加しています。

生活協同組合コープさつぽろでは二〇〇五年から五カ年計画で当別町・道民の森「こゝぶの森」での育樹活動に取り組んでいます。これは各地の漁協が主催する魚付林での植樹活動で現在、札幌地区、函館地区、釧路地区、苫小牧地区で行われています。

また生活協同組合コープかがわでは香川県内の環境保全の活動を組合員と地域の環境活



みやぎ生活協同組合での「こゝぶの森」



- 1：秋に実施された「山のセミナー」
2：春に実施された「山のセミナー」
3、4：ヒノキの間伐材を活用した「まな板」

国産材を使った商品の拡大や 体験型セミナーへの取り組み

動団体とともに推進し、美しい郷土づくりに寄与することを目的とした「エコ基金」が設置されています。二〇〇六年度に活用した基金の総額は一六九四万円になり、この内、約三三〇万円が地域の環境保全活動に寄付、助成されています。

広島生活協同組合連合会と「木の香る住宅工房」では毎年、「安全・安心な住まいづくり」と「環境保全」を一緒に考える「住まいのセミナー＆山のセミナー」を行っています。今年も七月から十一月まで計五回にわたって行われるセミナーでは、木材の特性、木をつくるプロセス、地域材利用の意味など

を座談会形式で講義が行われ、併せて、椅子作りの体験もできる「住まいのセミナー」（木の特性を活かした住まい）や林業家から林業の仕事とその役割についてうかがいながら、下刈と植林を体験する「山のセミナー」も催されます。

全国の生協で、国産材を使った製品を販売拡大する木づかい運動「3・9グリーンスタイル」（サンキューグリーンスタイル）も広まっています。これは国産材を使ってCO₂を減らし、京都議定書で定められた日本の温室効果ガス削減目標六%の内、三・八%を森林による二酸化炭素の吸収によって達成しようという取り組みです。中でも、高知県四万十川流域のヒノキの間伐材や、岐阜県東白川

のヒノキの間伐材を活用した「まな板」は、年々売上げを伸ばしている人気商品です。木製調理器具や木製玩具等も好評です。「美しい森林づくり全国推進会議」の構成団体として日本生活協同組合連合会は今後もさまざまなことに取り組んでいきたいと考えています。

日本生活協同組合連合会

略称・日本生協連は、消費生活協同組合法に基づいた全国の生協の連合会です。コープ商品の開発と会員生協への供給事業、通販事業、共済事業の展開、消費者の立場に立った食品の安全行政、平和・環境・福祉をめぐる活動や事業などに取り組んでいます。